

# 男女平等ランキングについて

「ジェンダー・ギャップ指数」とは、世界各国の女性の地位を経済、教育、政治、健康の4分野のデータから総合点で順位付けしたものです。

日本は「健康」や「教育」で順位を上げ、「政治」も順位を1つ上げ、103位になりましたが、世界経済フォーラムが、主に先進国で過小評価していた所得の差を実態に近づくように比較方法を改めたため、「経済」が118位と12下げ、総合で、昨年101位から111位となりました。

その原因として、女性の就職率や管理職比率の低さなど様々な要因が考えられ、ワークライフバランスの実現や女性の就職支援制度など様々な対策も検討、実施されています。

国名	今年の順位	比較	前年の順位	GGI値 (ジェンダー ギャップ指数)	各分野別順位の内訳			
					経済活動 への参加 と機会	初等教 育等へ の就学	健康と 生存率	政治へ の参加
アイスランド	1	→	1	0.874	9	1	104	1
フィンランド	2	↑	3	0.845	16	1	1	2
ノルウェイ	3	↓	2	0.842	7	28	68	3
アメリカ	45	↓	28	0.722	26	1	62	73
インド	87	↑	108	0.683	136	113	142	9
中国	99	↓	91	0.676	81	99	144	74
日本	111	↓	101	0.660	118	76	40	103
イエメン	144	→	145	0.516	141	141	122	139

※世界経済フォーラム「The Global Gap Report2016」より

そんななか、平成27年8月には、女性が十分に能力を発揮して、活躍できる環境を整備するため、女性活躍推進法が、制定されました。

女性が自らの能力を発揮し、社会で活躍できるよう、男女共同参画意識の高揚を図り、さらなる就労支援や情報提供などの充実が望まれます。



性別に関係なく、女性も男性も活躍でき、すべての人が尊重され、誰もがいきいきと自分らしく暮らせる、そんな社会をみんなで創っていくことが大切ではないでしょうか。

宇陀市人権啓発活動推進本部